

## 粕屋町と博多区下白井——二つの記念碑

### 大正五年の陸軍特別大演習（3）

陸軍特別大演習は天皇陛下が統監する、と定められています。北海道大学の正門は昭和十一年に札幌で特別大演習が実施された際、天皇陛下を北大にお迎えするため、新たに建造された門だということ。大演習それ自体の経過はもちろんです。大演習の実施が社会に及ぼす影響、その後の波紋も、とても興味深いものです。

御幸御野立所<sup>みゆきおのたちしよ</sup>には明治三十五年十一月の大演習で、明治天皇が演習終了後に、円形に整列した将校の中央で「講評」されたことを記念し、「駐蹕之所<sup>ちゆうつひつ</sup>」という碑が建てられています。それぞれ、村名そのままで「御幸村」と改め、熊本市に合併後も御幸の名は残りました。あるいは青森県黒石市にある「御幸公園」は、大正四年の陸軍特別大演習の際、やはり大正天皇が訪問されたことを記念して「御幸公園」と命名されたものです。（御

野立所の読みは「おんのだちどころ」「おのたちしよ」など、さまざまに行われている）大正五年の陸軍特別大演習の記念碑が粕屋町にもあります。ひとつは、福岡魁誠高校（旧粕屋高校）の同窓会館脇に立つ「陸軍特別大演習御講評之処」の碑です。書は参謀総長・陸軍大将上原勇作のもの。ここからJR福北ゆたか線を越えたところ（南側）にある小山には「御野立所公園」があり、その一面にやはり上原勇

作大将書の「大元帥陛下駐蹕之処」碑（大正五年十一月十四日陸軍特別大演習御統監）と「補修の碑」、その他、梨本宮守正王、閑院宮載仁親王、久邇宮邦彦王の御手植松の碑が並んでいます。ある時、戦前の千代小學校では二年生の遠足で「下白井の御野立所」へ行っていた、という話を聞き込みました。下白井は現在の福岡空港の北の方にあたります。旧陸軍が作った飛行場が米軍に接収された歴史があります。あるいは空港の整備

ですでに消え失せたかもしれないと思いつながら、月限周辺を探し回りました。そして空港内の道路をたまたまタクシーで通行していたときのこと、夕陽を浴びてきらりと光る石碑が一瞬、目にとまりました。筆太に「大元帥」という字が読み取れるではありませんか。残っていた、ついに見つけた…という思いでした。空港東側、サロンパスのネオン塔の下にあり、近くからはとうてい気づきません。空港内の道路、それもほんの数メートルの範囲からしか見えない。しかも、夕陽を浴びて文字が浮かび上がるという偶然が幸いました。

後日、調査に向かいました。上原勇作大将書「大元帥陛下駐蹕之処」碑（大正五年十一月十三日陸軍特別大演習御統監）。刻まれている文字は粕屋町のものと同じでした。ちがうのは、裏面の「御統監」の日付が粕屋町のものより一日早いということです。



① 「陸軍特別大演習御講評之処」碑（粕屋町 福岡魁誠高校同窓会館脇）



③ 「大元帥陛下駐蹕之処」碑  
（福岡市博多区 福岡空港東側高台）



② 「大元帥陛下駐蹕之処」碑  
（粕屋町御野立所公園）